

備前市事務事業評価表

事務事業名	会計事務		コード	担当課係	出納室
			06-01-17-01	担当者	福壽 克典
事業実施期間	平成17年度～		電話	64-1801	
総合計画 事業（政策）体系	大項目	自立したまちづくり			
	中項目	簡素で効率的な行政運営			
	小項目	その他事務管理			
	施策	出納			

事業について	
目的	迅速、合理的な会計事務
対象 (誰のために)	備前市（団体）
内容	予算執行の適正化を図るための審査、出納、決算を行なう

事業の結果	
実施項目	17年度
	回数など (単位)
審査枚数	47,743 枚
収納件数	162,446 件

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	2,789	国庫補助金等		直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	55,440	受益者負担		人件費		受益者負担	
	合計	58,229	市債		合計	0	市債	

必要人員	7.25	人
結果指標名	支払書等の審査枚（件）数	
結果指標量	47,743	
単位	枚（件）	
対前年比	—	
事業費	29,114,500	円
単当たりコスト①	610	円

結果指標名	収納1件あたりコスト	
結果指標量	162,446	
単位	件	
対前年比	—	
事業費	29,114,500	円
単当たりコスト②	179	円

事業の成果			
成果指標名	収入・支出総件数	式又は説明	1年間の総審査・収納件数
成果指標量	17年度 210,189		
対前年比	—	0.00%	
到達目標値	200,000	到達目標年度	平成22年度

(平成17年度事業)

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	公費の支出及び収入の業務は、市政を運営していく過程において必要なものであり、目的に対する妥当性は高い。
	対象の妥当性	
	市民ニーズの妥当性	
効率性の評価	市民ニーズの妥当性	業務の効率化のため、常に支払書枚数の削減努力をするなど、日常業務執行上削減できるものは創意工夫している。各課予算執行担当者に研修を行い、より正確な会計事務が出来るよう努力する。
	市の関与の妥当性	
	コストの効率化	
有効性の評価	手段の最適化	会計業務形態は組織的なものである。また、その問題点についても短期的・長期的に方向付けが必要なものがあり、論点を見極めて対応する必要がある。
	職場の効率化	
	目的達成度	
市民参画度	成果向上の可能性	
	市民参画度	

総合評価		評価区分 <A~E>
コメント	会計事務における総件数という指標を使って事務事業評価を行なった。口座振替推進等で総件数を減らし、効率性を追求する。	C

今後の方向性			
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する		
<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する		
<input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 完了・統合		
翌年度結果指標量①	47,000	結果指標量②	160,000
目標値	結果指標量	207,000	

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	会計事務研修会により会計事務担当者の熟練化を図る	毎年	正確な会計事務

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。